

# 橋がつなぐ今昔物語 まちをつなぐ ひとをつなぐ いまにつながる

清水のまち、その昔、東海道の江尻宿(稚児橋周辺)と巴川の川湊(港橋周辺)を中心に発展してきました。この2つの地区内を容易に行き来することができれば「まち」はもっと素敵になる...、そこで、主要な箇所の交通を確保するものとして、巴川に橋が架けられました。それは江戸時代、橋がまだ木製だった頃のお話です。その後、2地区をつなぐ「みちづくり」とともに新しいまちができ、巴川にはたくさんの橋が架けられていくことになりました。その中には、萬世橋のように地元の人々の熱い思いによってつくられたものも。

橋が架かり、人々や文化が交流し、新しい「まち」をつくる——そういった時の流れを経て、清水の「今」があるのですね。巴川をのんびり眺めて清水の歴史を感じながら、「しずみち散歩」してみませんか。

## 現在の橋が架けられた時期

稚児橋	(ちごばし)	2001年
柳橋	(やなぎばし)	1929年
大正橋	(たいしょうばし)	1925年
千歳橋	(ちとせばし)	1958年
萬世橋	(よろづよばし)	1935年
八千代橋	(やちよばし)	1998年
富士見橋	(ふじみばし)	1962年
港橋	(みなとばし)	1934年
羽衣橋	(はごろもばし)	1992年



稚児橋

### 技術でつなぐ 薄くても丈夫な橋

稚児橋の「桁」の厚みを他の橋と見比べてみてください。ちょっと薄いことがわかりますか？ 稚児橋はプレブームという特殊な工法で桁の厚さを薄くし、軽量化しています。これにより、橋脚がなくなり、川の流れもよくなりました。橋を架ける際には、周辺の状況や川との関係を考慮して様々な技術の中から最適な工法を採用して造っています。

### 橋歴板

橋のある部分に、このような板が取り付けられているのを見たことがありますか？ これは橋歴板といって、建設された橋の記録を記したものです。いつ、誰がつくったのかわかります。



### いのちをつなぐ

#### 橋の耐震補強・補修の取り組み

現在、道路管理者(国、県、市など)には、5年に1度、橋の点検の実施が義務付けられています。細部を目視したり、点検用のハンマーでコンクリートの音を聞いたりして、安全に使える状態であるか確認しています。大きな橋は橋梁点検車を利用して、目に見える位置まで行って隅々まで点検しているんですよ！ こうして、補強や補修の必要な橋を選定し早期に工事を実施し、長期間安全に利用できるように管理しています。

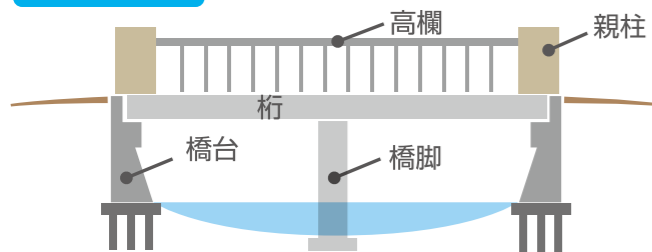


橋梁点検車を利用した点検



ハンマーを用いた点検

### 用語解説 ~ご存知ですか？橋の構造~



- 高欄** 転落防止のための柵。
- 親柱** 高欄の一部で橋の両端にある門柱のようなもの。
- 桁** 通行する重さを支えるもの。
- 橋台** 橋の両端で橋全体の重さを支える土台。
- 橋脚** 橋台の間で重さを支えるもの。

### 文化をつなぐ 高欄、親柱、照明灯

街なかを通る巴川には、橋名にまつわるデザインが施されている橋がたくさんあります。高欄や親柱に注目！照明灯も雰囲気があります。是非、お気に入りの橋を見つけてください。



稚児橋



柳橋



港橋



柳橋



八千代橋



稚児橋



羽衣橋



### 技術でつなぐ さびにくい橋

さびてしまうので鉄に海水は大敵...！って思いませんか？ 羽衣橋は最も海に近い橋にも関わらず、桁は鋼製です。これは塩害に耐える塗装技術が生まれたことから実現しました。



羽衣橋

# 巴川沿いの歴史と文化の散歩道

巴川は、駿府城や沼津などへ物を運ぶための水運に利用され、往時の物流を支える重要な役割を果たしていました。また、往時の陸上交通の大動脈である東海道も巴川を横断していたため、巴川沿いには、歴史的な名残が数多く見受けられます。

## 稚児橋かっぱ伝説

慶長12年(西暦1607年)家康公の命により、東海道五十三次沿いの巴川に橋が架けられ、江尻の宿にちなんで江尻橋と命名されることとなり、渡り初めの日となりました。儀式に先がけて、かねて選ばれていた老夫婦がまさに橋に足をかけようとした瞬間、川の中から一人の童子が現れ、するすると橋脚を登り忽然と入江方面に消え去りました。渡り初めに集まっていた人たちは、あまりに突然のことであっけにとられ、この出来事から、橋名を当初予定していた江尻橋ではなく稚児橋と名付けたといわれています。なお、その不思議な童子は巴川に住む河童だったと語り継がれています。



稚児橋のかっぱ像



## 今も残る清水の瓦

巴川沿いを歩いていると、瓦材が使われている堤防が随所にあります。かつて(昭和30年代頃)清水は瓦の一大生産地であったのをご存じですか? 巴川の水運や整備された道路網に恵まれた地域特性を活かして、県内外へ瓦が盛んに出荷されていたそうです。清水瓦を知る人は地元でも少ないようですが、後世につなげていきたい清水の産業文化です。



瓦で飾られた堤防

## 巴川の流れと季節のうつろい



堤防沿いのしだれ梅

千歳橋付近の堤防にはしだれ梅が植えられています。早春には、白や桃色のかわいい梅の花が巴川に彩りを添えています。

## 水神社大祭と巴川灯ろうまつり

江戸時代に津波がまちを襲った際、風と波を鎮めるために建てられた水神社では、毎年6月15日に大祭が行われます。また、毎年7月16日の夜に「清水巴川灯ろうまつり」が行われます。稚児橋から港橋にかけて設けられた5カ所の流し場から、亡き先祖への思いや、家内安全・無病息災などの願いを込めて約3800個もの灯ろうが流されます。250年余りの伝統を後世につなげていきたいですね。



灯ろう流し

## しずみち散歩 女性ワーキンググループ



静岡市建設局道路部道路計画課  
〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号  
電話: 054-221-1239  
静岡市HP「しずみち散歩はじめます!!」も検索してね。



今回のワーキングメンバー

平成29年8月

静岡  
ドボジョ  
が行く!

しずみち散歩 Vol.3

巴川  
清水をつなぐ橋たち編

しずみち

しずおか女子きらら



八千代橋

## 巴川の稚児橋～羽衣橋周辺へのアクセス

電車 JR清水駅、静岡鉄道新清水駅・入江岡駅から徒歩  
車 東名高速道路 清水インターチェンジから約10分  
稚児橋～羽衣橋間 片道約2.4km(徒歩で約35分)

## 見学時のオススメ

たくさんの橋を見学するには、歩きやすい靴、日焼け対策をおすすめします。川や橋の様子を見るときは、川に落ちないように注意しましょう。交通量の多い道があるため、車に気をつけてください。

